

全日本中学校長会会長賞（優秀賞）

大切な水を守る

水は無限にあるものではないということを、身をもって私に教えてくれたのは、祖父だった。羊蹄山の麓の雄大な自然の中で、自らの力で家を建て、遠く離れた場所から汲んできた水を、とても大切に使いながら静かな時間を過ごしていた祖父。その祖父の姿から、水を無駄遣いしていた自分に気づき、私もいつのまにか水を大切に使うようになった。

しかし、祖父が教えてくれた「水を大切にすることには、もっと深い意味がこめられていたことに、最近気がついた。

去年、私は、夕張市にあるシューパロダムを見学させていただいた。シューパロダムは、日本で第二位の湛水面積をもち、洪水を防ぐ治水や、発電や上水道に利用する利水の役割を果たす重要なダムだ。見学に行く前は、ダムと言えば、水を貯める場所だというくらいにしか考えていなかった。モーターボートに乗り、仕事に同行させていただいた。まず驚いたのは、湖内の点検作業だった。しかも、その点検項目は五十ほどもある。地図と照らし合わせながら広大な湖を回っていく。流木や投棄物、崩落の有無や侵入者など、一つ一つしっかり点検を行う。とても時間がかかる大変な仕事だ。他にも、川への放水の管理、堤体内巡視など、私が見学した短い時間の中で、数多くの仕事を行っていた。しかも、一年中、毎日これらの仕事を続けているのだ。人の手によって貴重な水が管理され、私たちにその水が提供されているという現実を初めて目の当たりにすることができた。

湖を巡視しているとき、ふと、以前母から聞いた話を思い出した。それは、母の知人の子どもの時代の話だ。電気や水道はないため、洗濯は川でするのだが、泥炭地帯の黒い水なので、白い服は黒くなってしまふ。また、飲み水も井戸から汲むのだが、そのままでは飲み水には適さず、一度大きな瓶に入れ、ミョウバンを入れて殺菌・消毒してから使う。この話は、わずか五十年ほど前の話だ。つまり少し前までは、これほど水

北海道 長沼町立長沼中学校 三年 池亀 廉

に苦労する生活があったのだ。きつと祖父も、水を手に入れるのに、同様の苦労をしていたに違いない。

私たちは、今充実した水環境の元で暮らしている。蛇口をひねれば、いくらでも綺麗な水を手に入れることができる。しかし、それは、当たり前なことではなかった。水を管理する人たちが存在し、苦労を重ねながら設備を整え、毎日水の管理を続けてくれておかげなのだ。その一翼を担っているのが、今一緒にボートに乗っている方々だったのだ。

これまで、祖父の姿から、水が大切なのはわかっていたつもりだったが、それは一面を理解したに過ぎなかった。今回、ダムで働く方々を間近に見て、祖父が思う本当の水の大切さがやっとわかったような気がする。祖父は、苦労して水を手に入れ、大切に管理しながら水と共に生活していた。つまり、水とは、人が苦労を重ねて手に入れられる貴重なものであること。だからこそ、自分たちの手で水を管理し守っていかねければならないこと。これが、祖父が本当に伝えたかったことなのではないだろうか。だから、水に対して無関心や無責任な態度ではなく、自分の手でしっかりと水を守っていかねければならない。それが「水を大切にすることなのだ。

祖父に詳しく話を聞いてみたかったが、残念ながら祖父は、今年の冬、亡くなってしまった。私は、祖父の思いを受け継ぎ、私も水を守る一人として、これまで以上に節水や水を汚さないことに取り組む決意をした。水は多くの人の手で守られている。そこに、私たち一人ひとりも関わっていかねければならない。これから、多くの苦労の末にやっと手に入る水に感謝し、水を大切にすることを送っていききたい。目の前にあるコップ一杯のきれいな水を、いつまでもみんなの手で守っていくのだ。